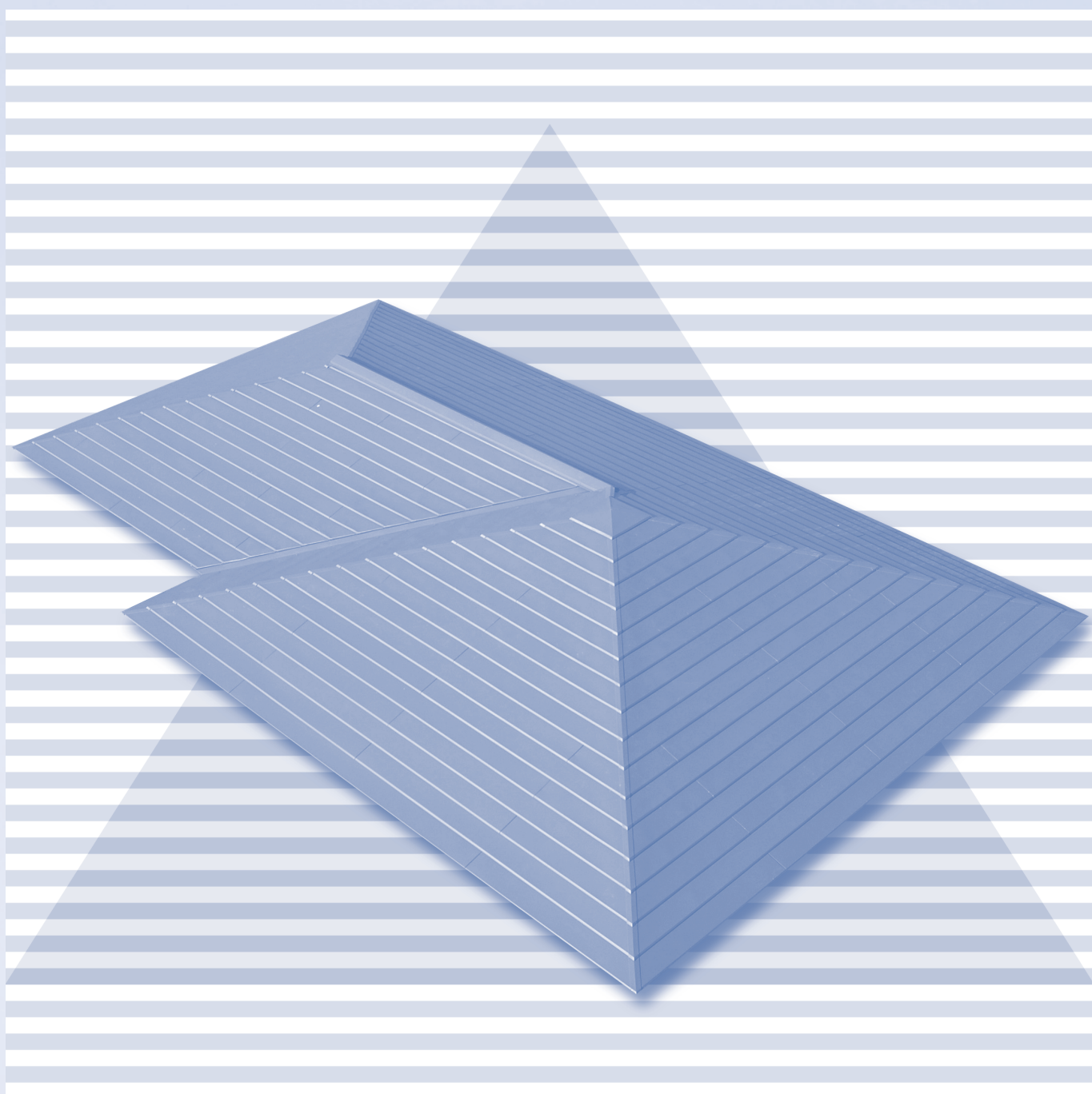


ダンビー

IC だんぶき 190・303

キャップレス&キャップ工法

施工マニュアル



CD-R/DVDをご活用ください

アスベストの飛散を防ぐ
ICだんぶき改修工法



ダンビー（ICだんぶき190）を正しく安全に
施工していただくために、施工マニュアルに基
づいたCD-R/DVDを用意しています。
マニュアルと併用してご活用ください。

目次

特長 ●施工しやすく、きれいな仕上がり	1~2
施工手順	3
1 実測して屋根の下地を確認 2 軒先唐草を取付ける	4
3 下葺材の敷込みと本谷の仮止め	5
4 けらば唐草を取付ける 5 割付け	6
6 本体の施工	7~8
7 けらば納め・つかみ込み工法 8 けらば納め・キャップ工法	9
9 降り棟の取付け	10
10 本谷（稲妻谷120）の納め	11
11 棟包みの納め 12 片流れの棟納め	12
13 DS換気棟／DS換気棟・片棟用	13
14 壁との取合い 15 トップライトの納め	14
16 標準役物	15
ダンビー改修工法 ●施工手順	16
■ 軒先唐草の納め ■ 棟の納め ■ 壁の取合い	17~18
■ リフォーム専用役物 ■ 雪止め金具	19
安全作業と施工上の注意	20

施工しやすく、きれいな仕上がり

この施工マニュアルは、ダンビー（ICだんぶき190・303）を安全に、きれいに葺くための手引きです。
施工に当ってはダンビーの特長をご理解いただき、手順に沿って正しく施工してください。
重厚感のある「だんぶき屋根」が素早く、優美に、経済的に施工できます。

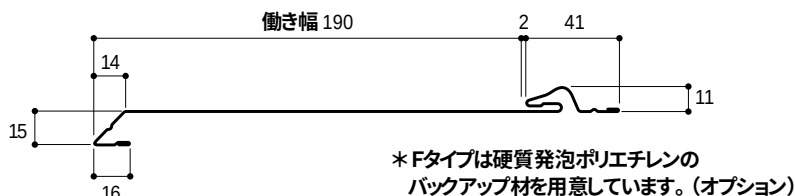
ダンビー190

ダンビー190はFタイプとMタイプがあります。

ダンビー（キャップレス）：L=2900、6枚/梱包（ジョイント付）

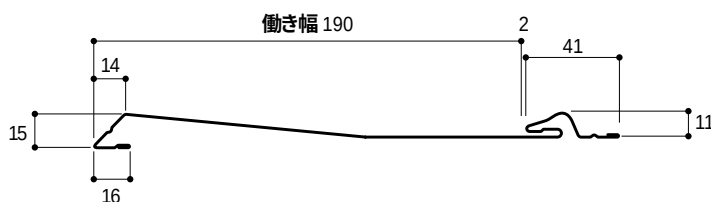
Fタイプ

キャップレス工法
キャップ工法



Mタイプ

キャップ工法

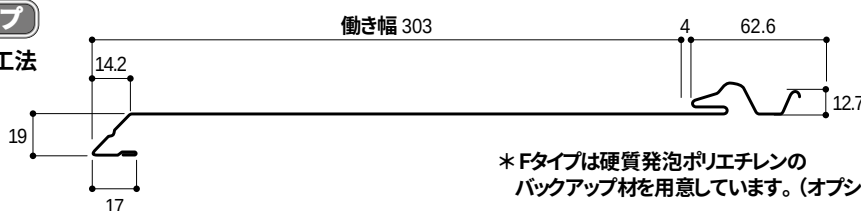


ダンビー303

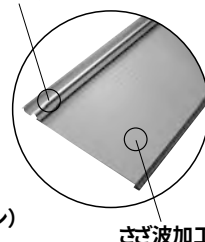
ダンビー303はFタイプのための「キャップ工法」です。

Fタイプ

キャップ工法



ローレット加工



地震などの災害に強い屋根

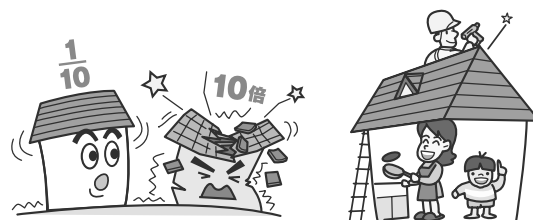
世界規模で地震や強風による被害が続出しています。金属屋根は瓦屋根に比べ約1/10の軽さで割れたり、ズレたりする心配もなく、地震や台風などの災害に威力を発揮します。

アスベスト対策に強い味方

新築はもちろん改修は住んだまま、古い屋根上から安全に施工できます。特に、社会問題として大きくクローズアップされているアスベスト（石綿スレート屋根）の改修には有効で、納得のいく予算で、満足できる結果が得られます。

標準仕様

型式		ダンビー190	ダンビー303
長さ	キャップレス工法	定尺：2900mm	—
	キャップ工法	スケッチサイズ	スケッチサイズ
板厚		0.4mm	0.4mm
働き幅		190mm	303mm
m ² 当たりの長さ		5.27m	3.3m
1m当たりの重さ		1.017kg	1.525kg
屋根勾配		25/100以上	25/100以上
野地板 耐水合板		12mm以上	12mm以上
耐火野地板		15mm以上	15mm以上
耐火構造 認定番号		FP030RF-9082	ニチハ（株）
		FP030RF-9252	ウベボード（株）



素材は塗膜保証の高耐食性塗装鋼板

屋根材は、JFEのガルバリウム鋼板をベースに、遮熱機能を大幅に向上させた、高耐食性塗装鋼板を採用しています。

- 標準保証規格（穴あき及び赤錆10年保証）
JFEカラーGLオアシス、JFEカラーGLきわみ
- 塗膜15年保証
JFEカラーGLきわみ
- 塗膜20年保証
ダルエースF-20GL、F-20GLオアシス

用途

住宅、別荘、店舗、レジャー施設、体育館、コミュニティーセンター、ドライブイン、倉庫、工場など、外観の意匠を重視する新築・増改築の建物、さらに、石綿スレート屋根の改修（アスベスト対策）に最適です。

吊子レスの馳組み工法

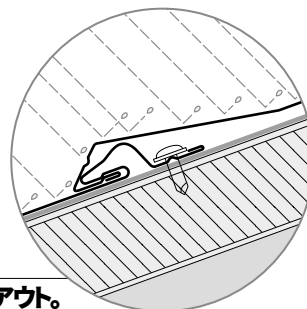
本体一体型の馳構造で吊子は不要です。下馳部をIC野地板用ビスで野地板に固定する馳組み工法です。

専用の役物でスピーディーに施工

屋根葺き作業は、専用の役物を使ってスピーディーに施工できるシステム工法です。本体の長さもキャップ工法はスケッチサイズ、キャップレス工法は定尺寸法（2,900mm）にまとめ、1人で持ち運びできるよう配慮しました。

強固な馳構造で雨水の浸入を防御

馳部は風雨の吹き込みや毛細管現象を防御すると同時に、屋根材の伸縮を吸収して歪みのない美しさを保ちます。



強靱なハゼ構造で
雨水の侵入をシャットアウト。

キャップレス工法

●ダンビー190（Fタイプ）のみに対応。

※写真はダンビー190（Fタイプ）キャップレス工法。



キャップ工法

●ダンビー190（Fタイプ・Mタイプ） ●ダンビー303対応。

※写真はダンビー190（Fタイプ）キャップ工法。※ダンビー303も同じ要領で施工できます。



IC専用ビス

IC野地板用ビスは、引抜き強度試験で裏付けされた専用ビスです。

IC役物用ビスとIC役物用鋼板ビスは、屋根材に合わせた色を取り揃え、後塗りの手間を省き、仕上げがきれいになるよう配慮しました。

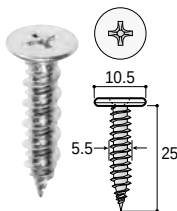
IC野地板用ビス（平）

木下地・耐火野地板用
品番：B-1

サイズ：5.5×25mm

材質：三価クロム

700本/箱



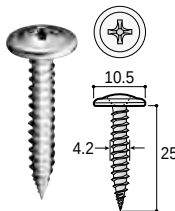
IC野地板用ビス（ナベ）

木下地・耐火野地板用
品番：B-2

サイズ：4.2×25mm

材質：三価クロム

500本/袋



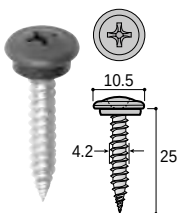
IC役物用ビス

木下地役物取付用
品番：B-3

サイズ：4.2×25mm

材質：SUS410

50本/袋（各色あり）



IC役物用鋼板ビス

役物金具取付用
シリコンパッキン付き
品番：B-4

サイズ：4×13mm

材質：SUS410

50本/袋（各色あり）



IC野地板用ビス 引抜き強度試験



▲IC野地板用ビス引抜き強度試験

施工手順

実測して屋根の下地を確認



軒先唐草を取付ける



下葺材の敷込み。本谷の仮止め（本谷がある場合）



けらば唐草を取付ける



割付け



本体の施工



けらばの納め・つかみ込み工法



けらばの納め・キャップ工法



降り棟の取付け



本谷の納め



棟の納め



片流れの棟の納め



壁との取合い（水上側・流れ側）



各納まりの点検と清掃、引渡し

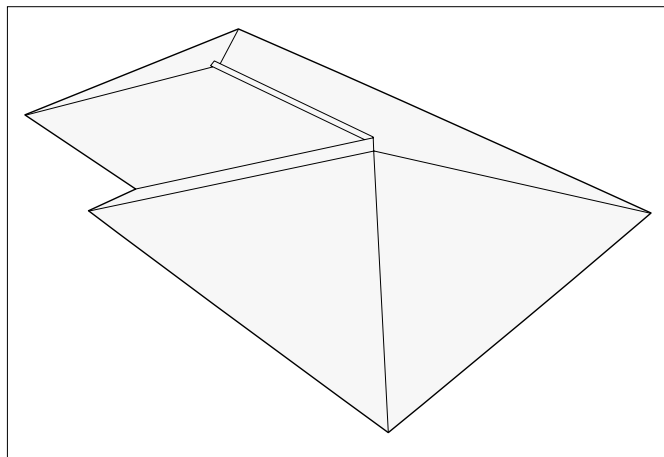
1 実測して屋根の下地を確認

1-1

勾配や流れ・桁行の寸法、野地板の厚さなどが図面の施工基準に合っているか確認してください。

■適応条件

- 屋根勾配：25/100以上
- 野地板(耐水合板)の厚さ：12mm以上

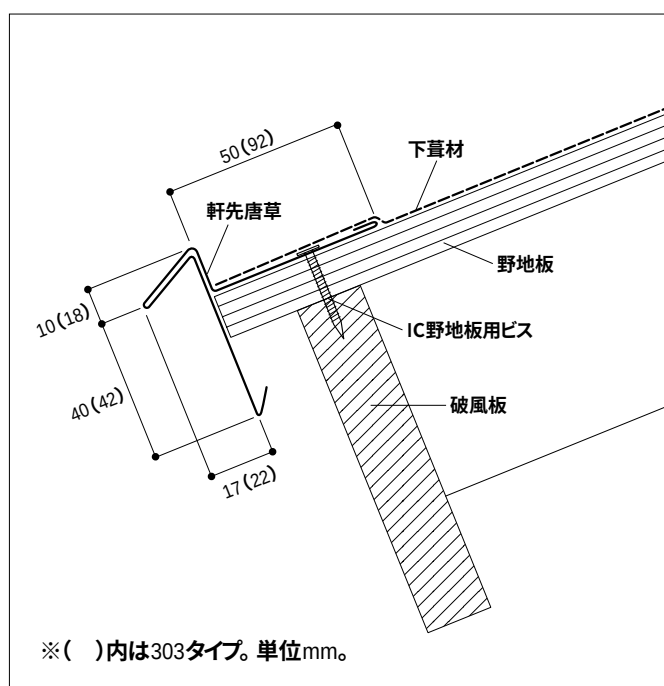
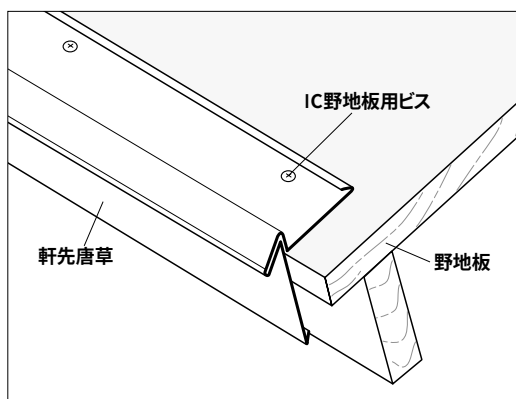


2 軒先唐草を取付ける

2-1

①軒先唐草は、IC野地板用ビスを使って、条件に応じた間隔で野地板に取付けます。

②軒先唐草部は、下葺材(アスファルトルーフィング940以上またはゴムアスシート)を軒先先端から、軒先唐草に被せるように敷込みます。



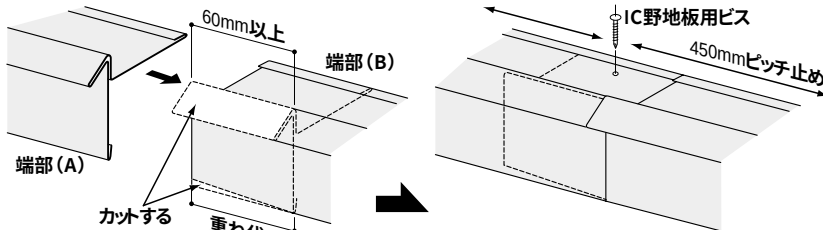
2-2

ジョイント加工

右端部(B)の差込み部を60mm以上カットし、端部(A)を端部(B)に重ねてジョイントします。

- 軒先唐草は上面にIC野地板用ビスを450mm以内の間隔で固定します。

ジョイント加工

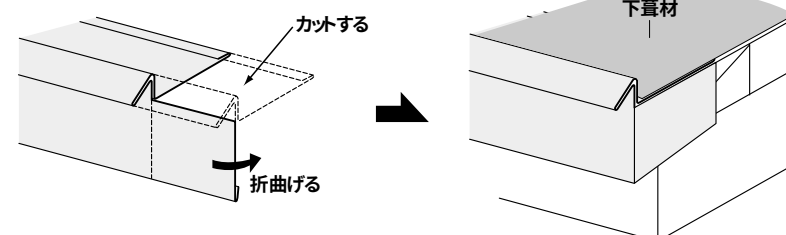


2-3

端部の加工

軒先唐草の端部を図のようにカットし、木下地に沿って折曲げます。

端部の加工

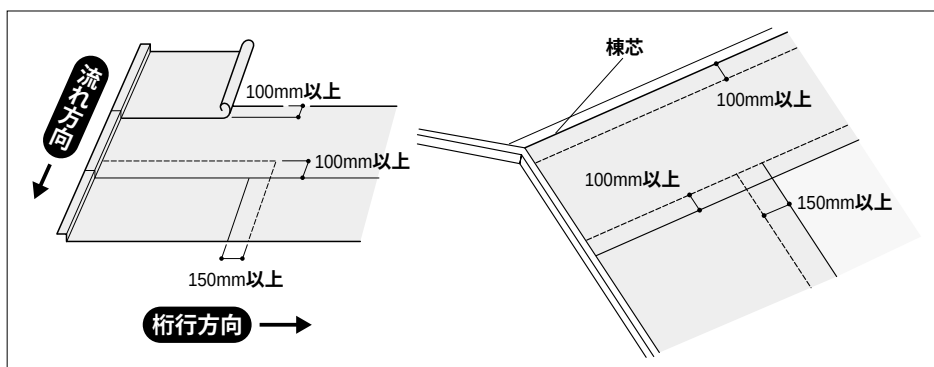


3 下葺材の敷込みと本谷の仮止め

3-1

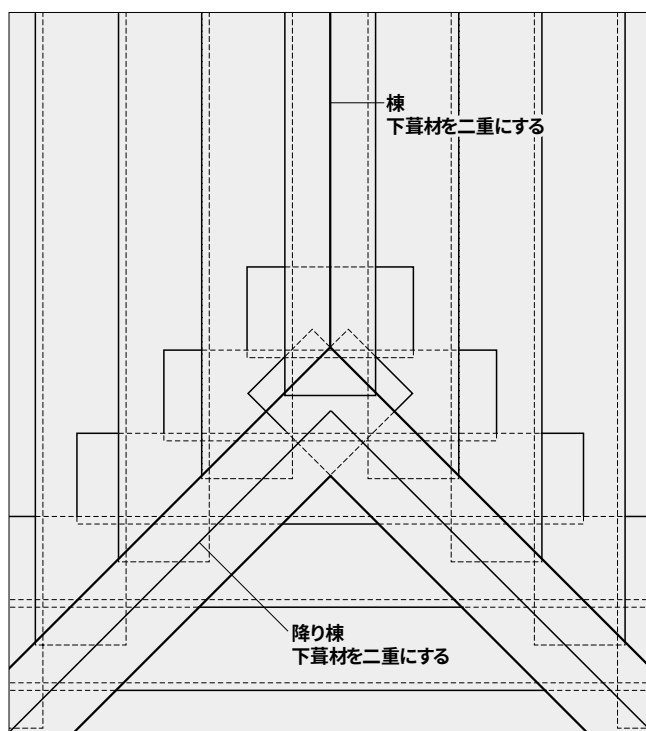
野地板に下葺材（アスファルトルーフィング 940 以上、またはゴムアスシート）を敷込みます。

●重ね部は、流れ方向に 100mm 以上、桁行方向は 150mm 以上取ってください。



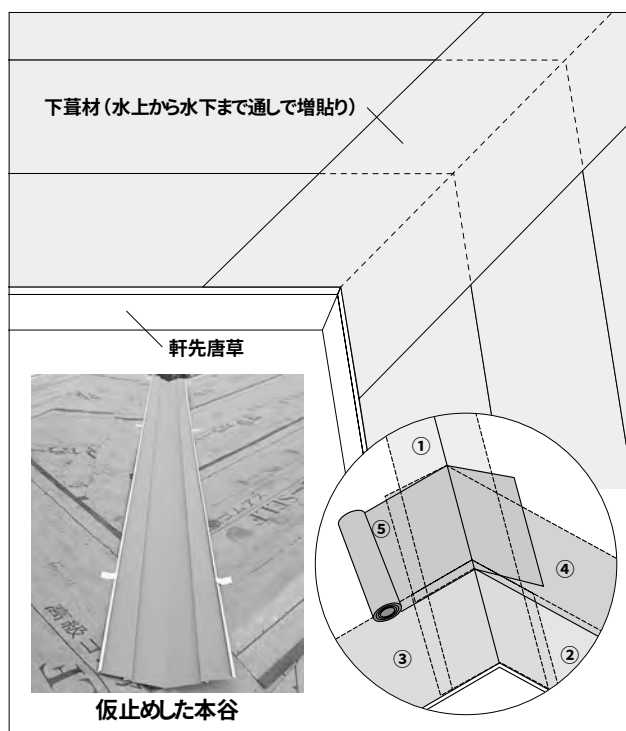
3-2

棟・降り棟部は二重に敷込んで増貼りします。



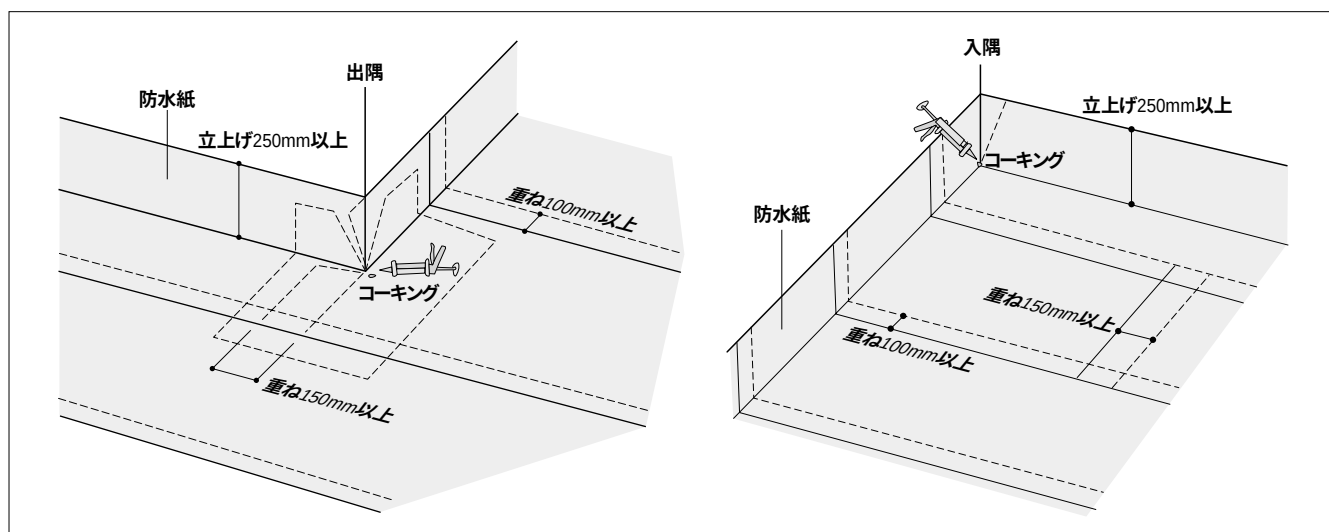
3-3

本谷があるときは、水上から水下まで通して敷込み、二重に増貼りし本谷を仮止めしておきます。



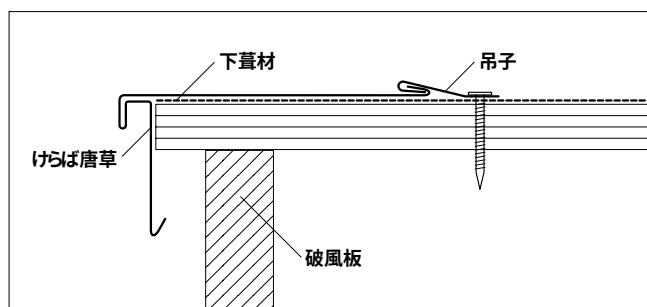
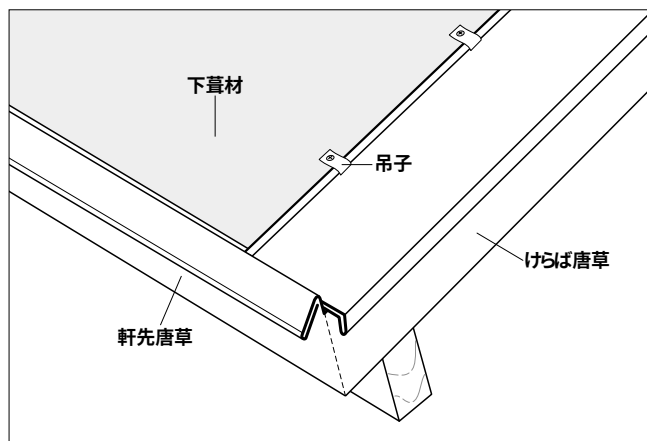
3-4

出隅、入隅部 ●出隅、入隅部は250mm以上立ち上げ、コーキング処理をします。

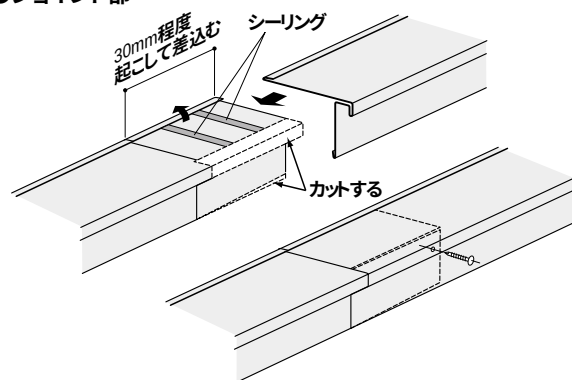


4 けらば唐草を取付ける

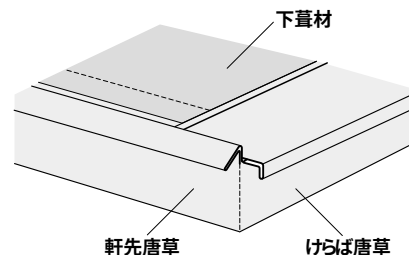
- 4-1 けらば唐草は、敷込んだ下葺材（アスファルトルーフィング940以上、またはゴムアスシート）の上に被せ、吊子を用いて条件に応じた間隔で野地板に固定します。



●ジョイント部

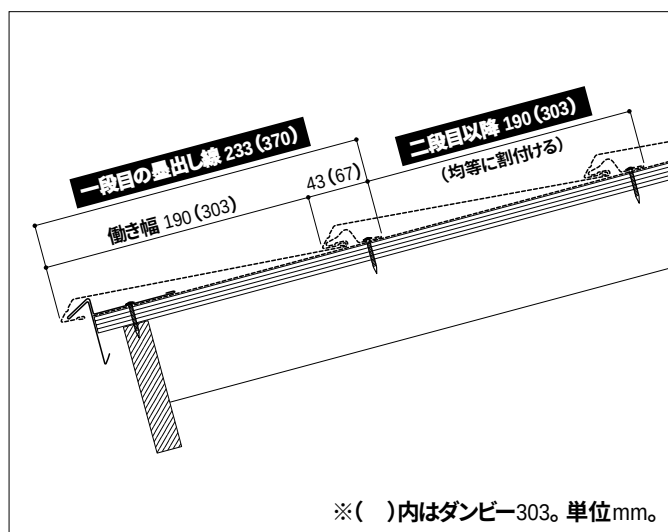


●端部



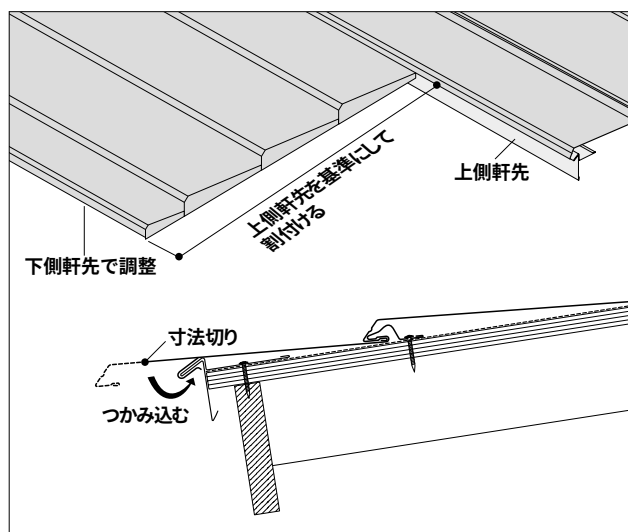
5 割付け

- 5-1 一段目は、本体の軒先端から、働き巾190(303)mm+重ね部43(67)mmを加えた233(370)mmで、墨を出します。二段目以降は、働き巾190(303)mmで均等に割付けます。
※()内はダンビー303



- 5-2 段違い部

- 割付けが本体の働き巾に合わないときは、上側軒先を基準にして割付けます。
- 本体は割付けに合わせて寸法切りし、唐草につかみ込みます。

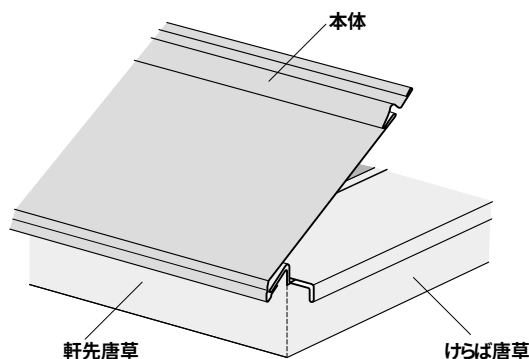


6 本体の施工

- 6-1 ダンビーの荷揚げと仮置き ● 荷揚げは本体や役物を結束し、折れたりねじれたり歪まないようバランスを取りながら、細心の注意を払って荷揚げしてください。仮置きは重ね部を上にして、風雨や振動によって滑り落ちないように角材や足場、シートなどを利用して養生してください。

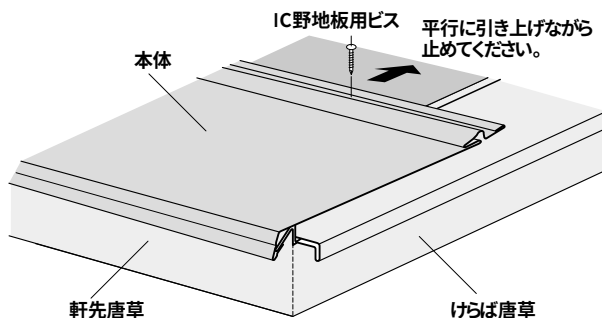
6-2 本体の取付け(キャップレス工法・Fタイプ)

- 軒先唐草に本体の先端を引っ掛けます。



軒先部の納め

- 噛み合わせるように奥までしっかり嵌め込み、IC野地板用ビスで野地板に固定します。



6-3 ジョイント継手の納め(ダンビー190・Fタイプのみ)

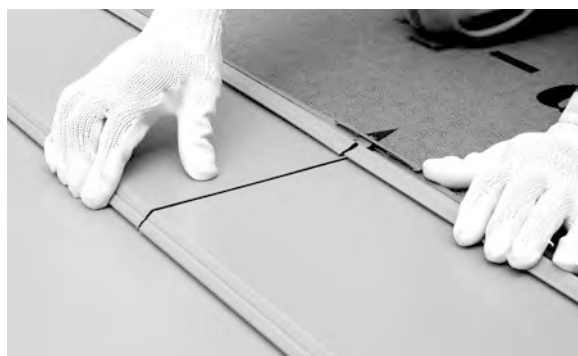
- キャップレス工法(ダンビー190・Fタイプのみ対応)は、ジョイント捨て板のツメに本体の端部を両サイドからしっかり差込んでジョイントします。
- ジョイント部の間隔は、約3mmで調整でき、シンプルに仕上がります。



① ジョイント捨て板を取付けます。



② 本体の端部を捨て板のツメに差込みます。



③ ジョイント部の間隔は約3mmで調整できます。

6-4 本体の固定

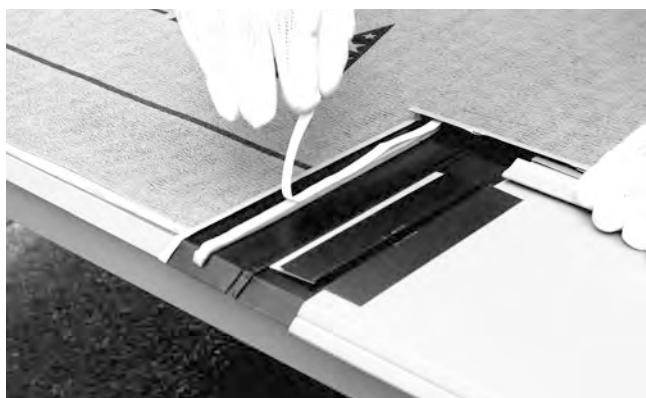
- 本体の固定は、IC野地板用ビスを用い、条件に応じた間隔で野地板にしっかり固定します。
- 吊子レス工法ですから、素早く正確に固定できます。



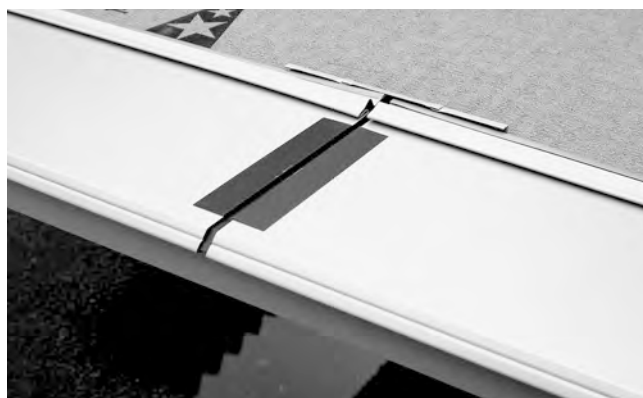
6-5 本体の取付け(キャップ工法)

●キャップ工法に対応するダンビー190(Fタイプ・Mタイプ)とダンビー303は、専用のジョイント捨板と化粧キャップを使って納めます。

*写真はダンビー190(Fタイプ・キャップ工法)の本体取付け。



① ジョイント捨板の剥離紙を剥がします。



② 本体の端部をツメに差込んでジョイントします。



③ 化粧キャップをツメに沿って挿入します。

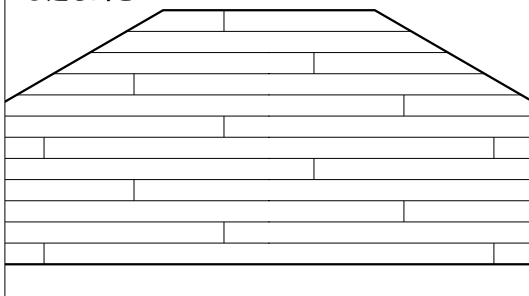


④ 化粧キャップを取付けたジョイント部の納め。

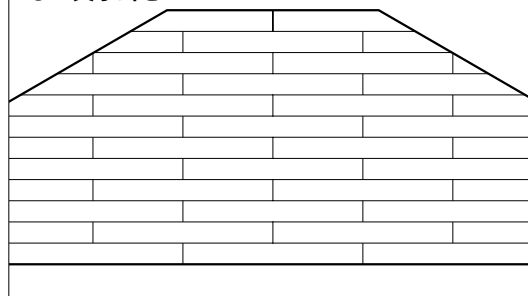
6-6 ジョイント部の割付けパターン

ジョイント継手の位置を変えることによって、廻し葺きや、一文字葺きなど、変化に富んだ屋根面が構成できます。

●廻し葺き



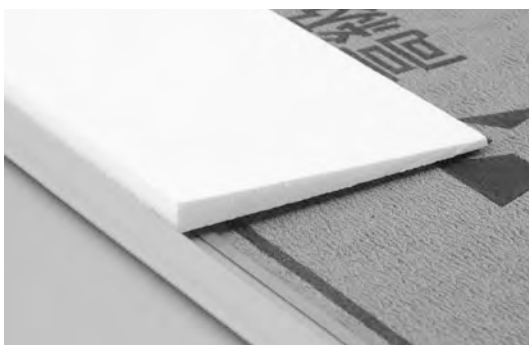
●一文字葺き



6-7 バックアップ材を使った施工(オプション)

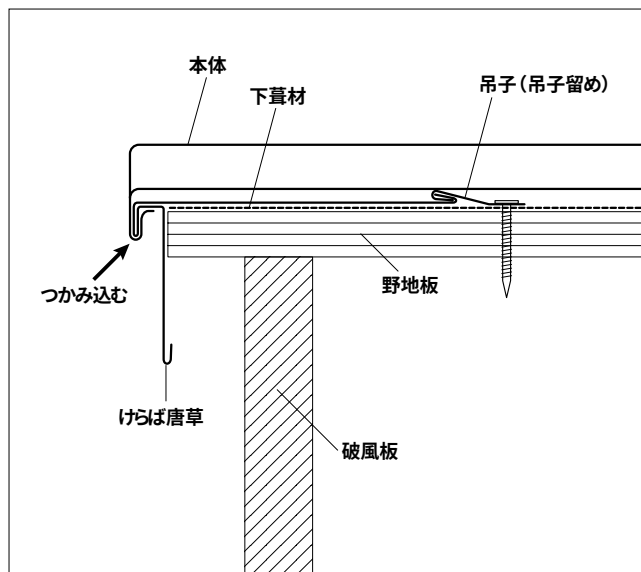
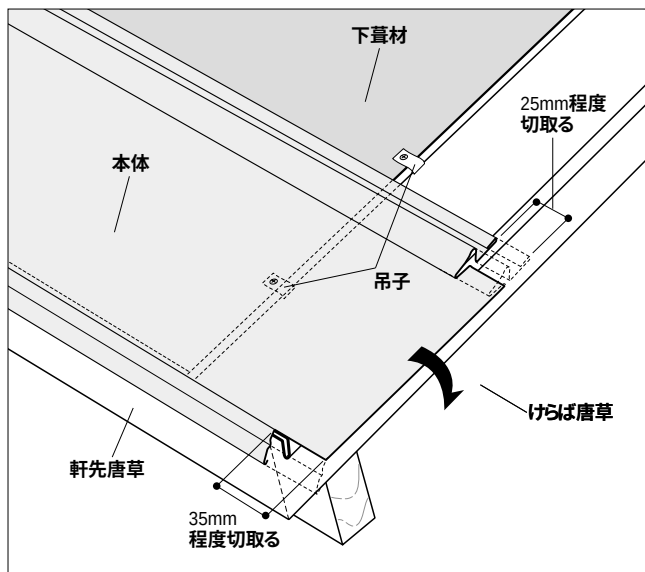
L=6尺

Fタイプは、硬質発泡ポリエチレンのバックアップ材を使った施工もできます。



7 けらば納め・つかみ込み工法

7-1 本体の端部を図のように切取ります。つかみ幅を残し、けらば唐草につかみ込みます

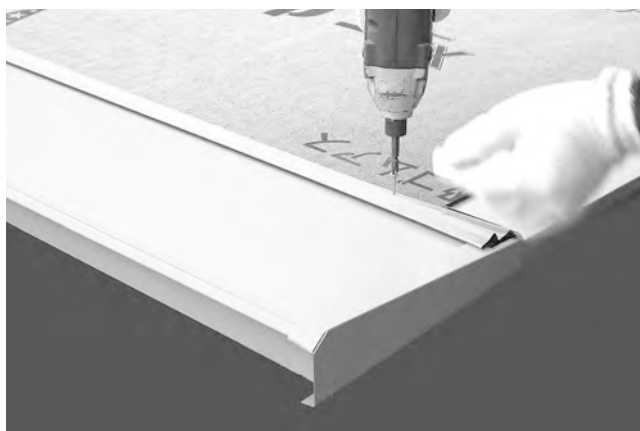


8 けらば納め・キャップ工法

8-1 けらばキャップをけらば唐草に合わせ下から差込みます。



8-2 本体は、IC野地板用ビス用い、条件に応じた間隔で野地板に固定します。



8-3 けらばキャップは、ねじれや脱落を防ぐため、IC役物用鋼板ビスまたはリベットで唐草に留め付けます。

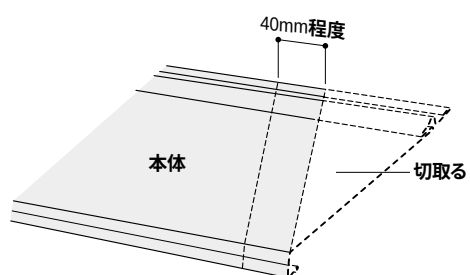


8-4 IC役物用鋼板ビスまたはリベットは、次のけらばキャップを被せて見えない位置に留め付けます。

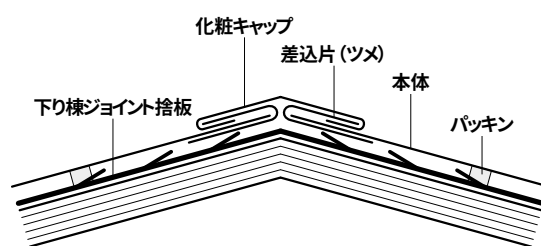


9 降り棟の取付け

9-1 降り棟の角度に合わせ本体を切取ります。



9-2 切り取った端部を、降り棟ジョイント捨板に差込みます。



9-3 化粧キャップをジョイント捨板のツメに挿入し、最後までしっかり差込みます。



9-4 化粧キャップは、ねじれや脱落を防ぐために役物用鋼板ビスまたはリベットで本体に留め付けます。



9-5 ビス・リベットの頭は、本体と同色の補修塗料でタッチアップします。



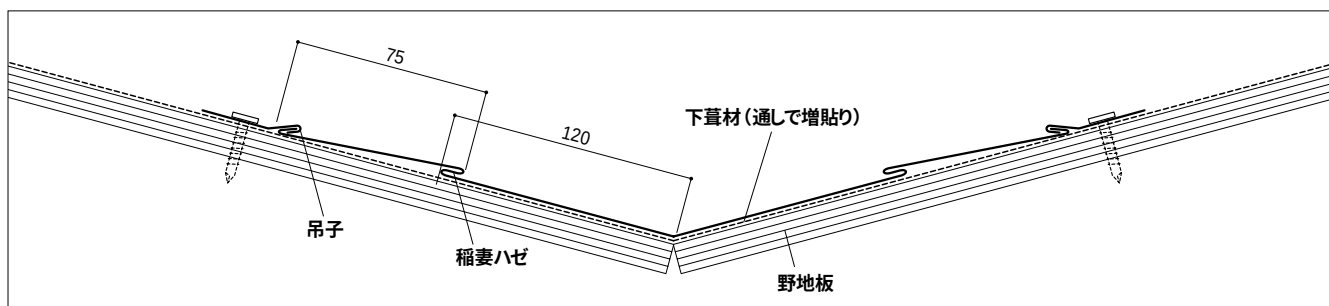
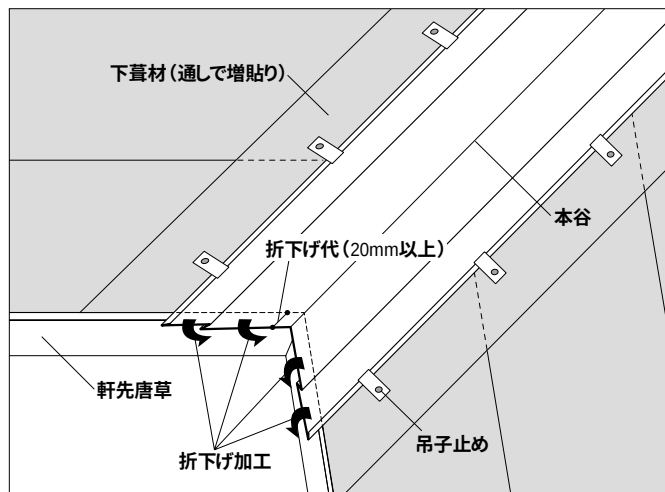
9-6 完成した降り棟の納め



10 本谷（稲妻谷120）の納め

10-1 下葺材（アスファルトルーフィング940以上、またはゴムアスシート）を敷込んだ後、吊子で仮止めしていた稲妻谷を、吊子間隔（条件に応じた間隔）で野地板に固定します。

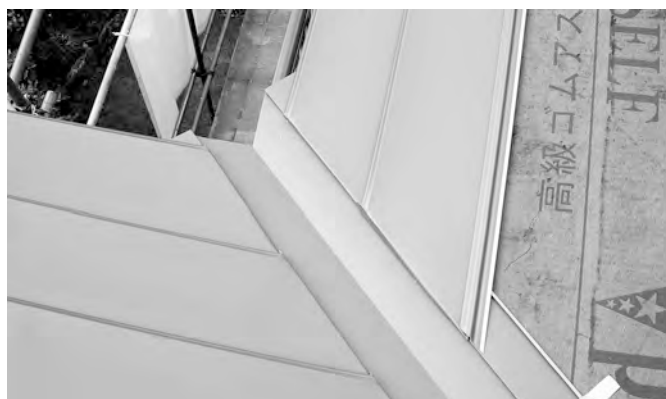
10-2 稲妻谷の先端は、現場合わせて軒先折下げ代20mm以上とって切落とし、軒先唐草に折下げて納めます。



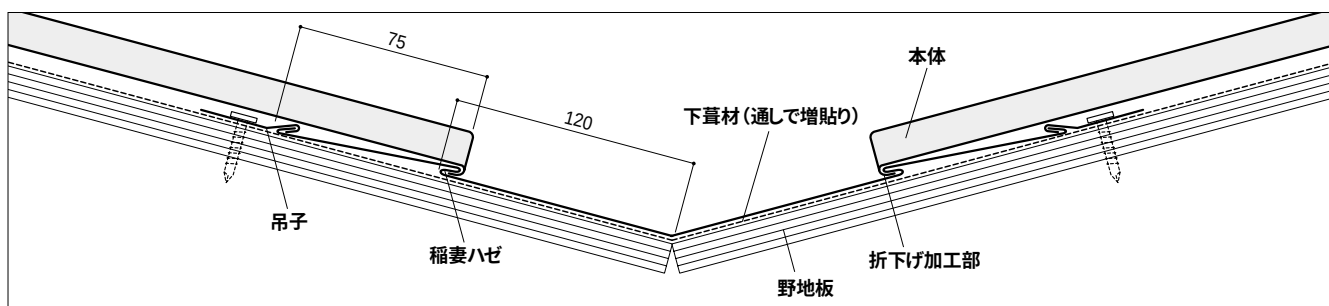
10-3 谷のラインに沿って本体の端部（稲妻ハゼに接する側）を切取り、折下げ加工します。



折下げ加工部



10-4 折下げ加工した端部を、稲妻ハゼに引っ掛けながら葺き上げます。



11 棟包みの納め

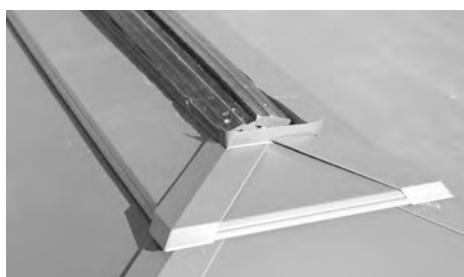
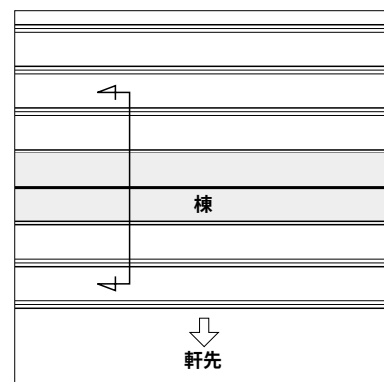
11-1 木下地16～20mmを取付けます。

11-2 木下地に接する本体端部の立上げは、実測して長手方向に木下地の高さに合わせて立上げ（水返し）、IC役物用ビスを用い条件に応じた間隔で取付けます。

11-3 木下地に棟下地を取付けます。

11-4 下葺材を被せます。これは、棟包みの裏面を絶縁処理して、防食と防水性能を高めるためです。

11-5 棟包みを取付けます。棟下地の側面にIC役物用ビスを用い、条件に応じた間隔で留め付けます。



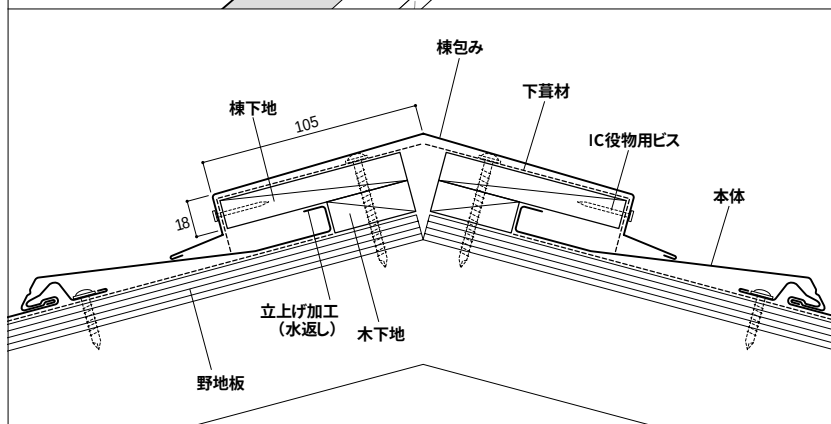
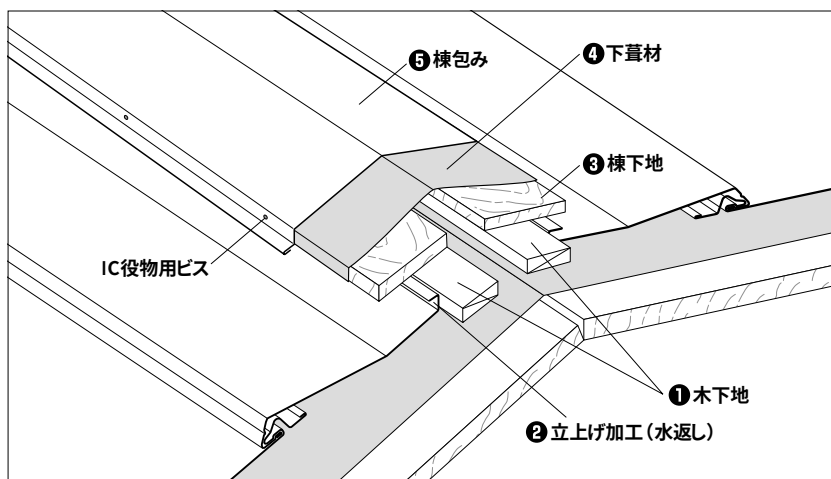
② 本体端部の立上げ（水返し）。



④ 棟下地に下葺材を被せる。



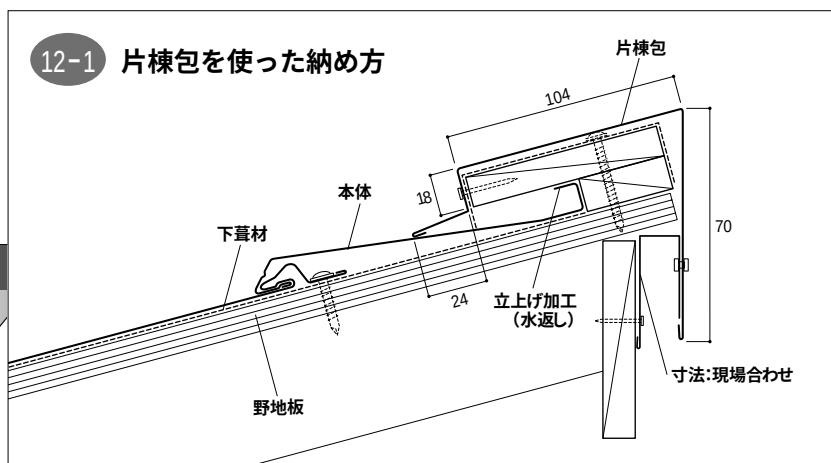
⑤ 棟包みの取付け。



※DS換気棟を使用する時は、木下地を1段にしてください。

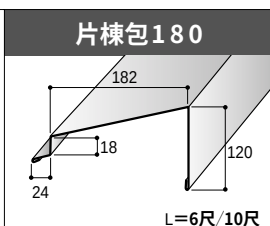
12 片流れの棟納め

12-1 片棟包を使った納め方



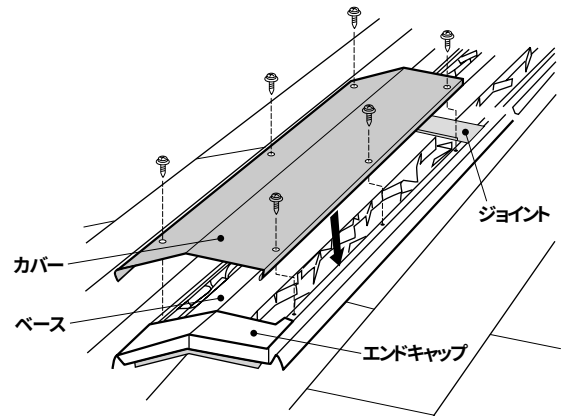
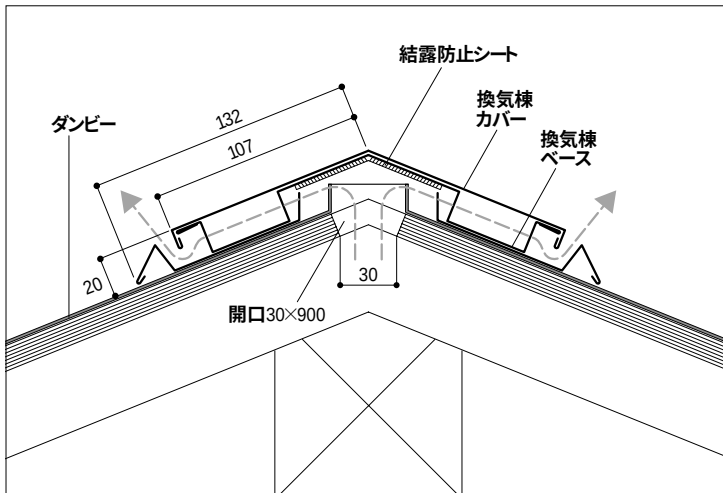
※DS換気棟・片棟用を使用する時は、木下地を1段にしてください。

※DS換気棟・片棟用を使用する時は、右の棟包（180）をご使用ください。



13 DS換気棟/DS換気棟・片棟用

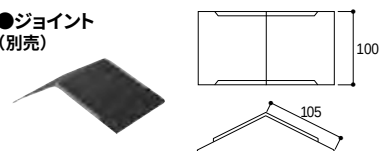
■ DS換気棟



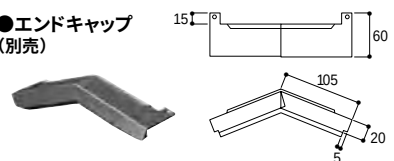
長さ	有効換気孔 (面積)	適応天井 (面積)	厚み
909mm	118.8cm ²	19.0m ²	0.4mm
1818mm	237.5cm ²	38.0m ²	

取付部材

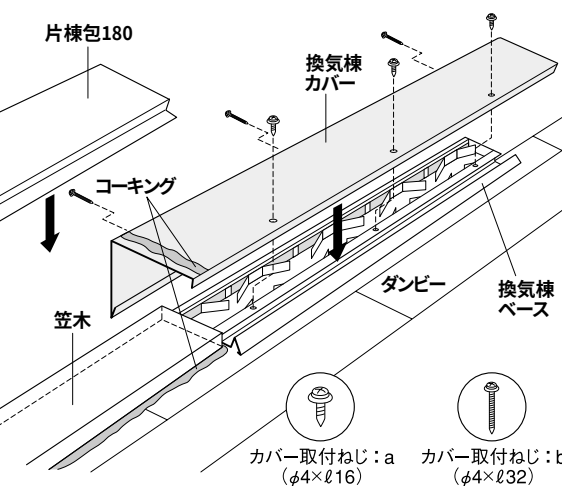
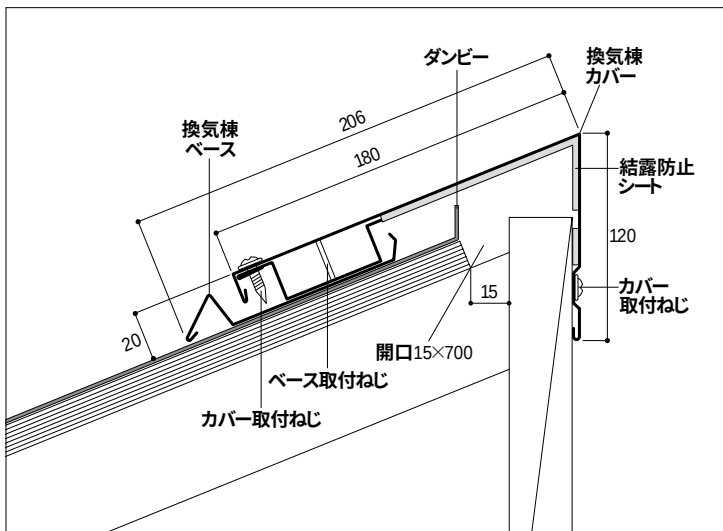
●ジョイント (別売)



●エンドキャップ (別売)

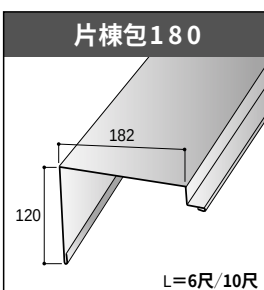


■ DS換気棟・片棟用



長さ	有効換気孔 (面積)	適応天井 (面積)	厚み
909mm	59.4cm ²	9.5m ²	0.4mm
1818mm	118.8cm ²	19.0m ²	

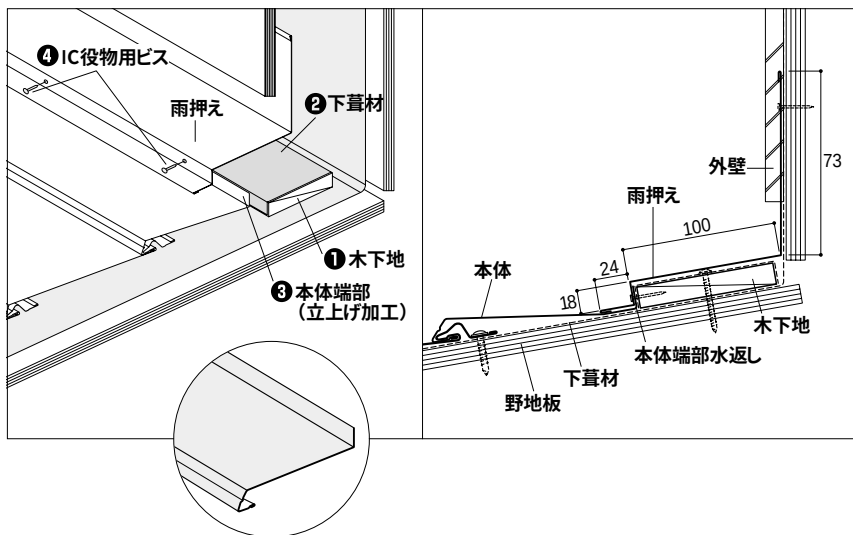
片棟包180



14 壁との取合い

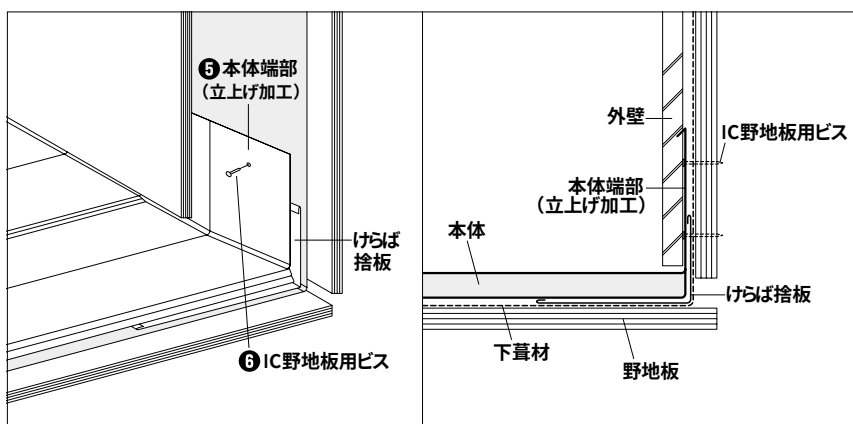
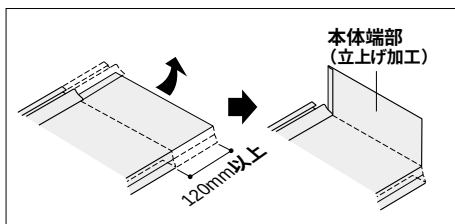
■ 水上側（水平方向）

- 14-1 木下地を取付けます。
- 14-2 木下地に下葎材を敷込みます。
- 14-3 本体の端部に水返し（立上加工）を施します。
- 14-4 雨押えを木下地の側面にIC役物用ビスを用い、条件に応じた間隔で留め付けます。



■ 流れ側

- 14-5 壁面までの寸法を実測し、立上げ寸法（120mm以上）を加えて本体の端部を切断、壁面を垂直に立上げます。
- 14-6 本体を壁面に沿ってIC野地板用ビスで条件に応じた間隔で取付けます。

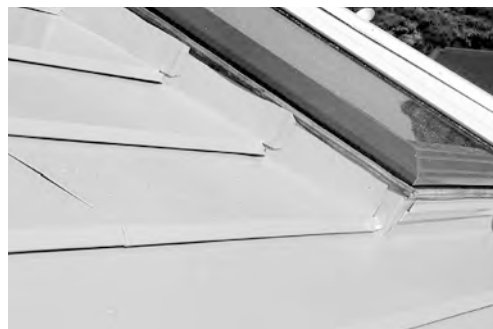
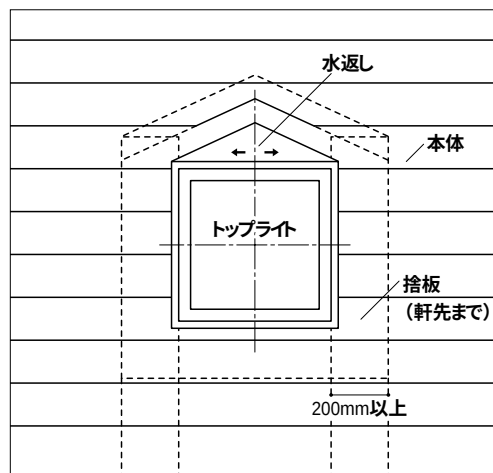
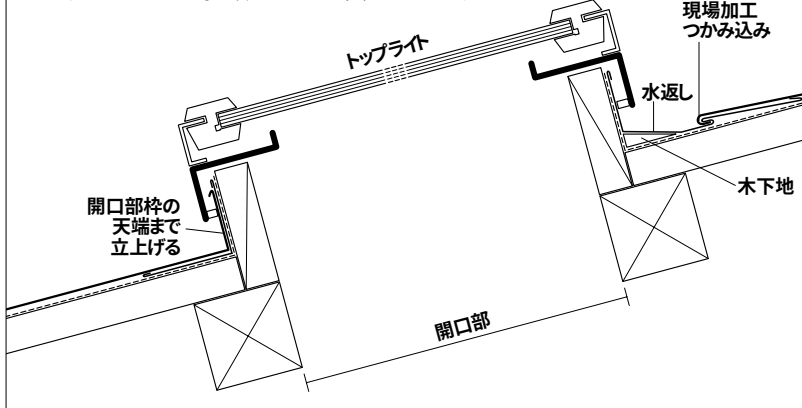


15 トップライトの納め

- 15-1 あらかじめ加工した水返しと捨板を、開口部枠の外側に沿って取付けます。
- 15-2 本体は、立上がり代を残して、開口部枠の天端まで立上げ加工を施し取付けます。
- 15-3 トップライトの水返しの取合いは、水勾配に合わせて現場で加工し、つかみ込んで納めます。（この時、四隅の取合い部の雨仕舞は、コーキングなどの処置を施し、十分注意して施工してください。）

トップライトの基本的な納め

※トップライトの種類によって異なります。



■ 新築用

※ () 内はダンビー303用、それ以外は兼用

軒先唐草 定尺寸法：L=6尺/10尺	けらば唐草 定尺寸法：L=6尺/10尺	けらば捨板 定尺寸法：L=6尺/10尺	棟包 定尺寸法：L=6尺/10尺
棟包(150) ●ダンビー303用 定尺寸法：L=6尺/10尺	DS換気棟 定尺寸法：L=3尺/6尺	片棟包105 定尺寸法：L=6尺/10尺	DS換気棟・片棟用 定尺寸法：L=3尺/6尺
片棟包180(換気片棟用) 定尺寸法：L=6尺/10尺	稲妻谷120 定尺寸法：L=6尺/10尺	雨押え ※は高耐久仕様 定尺寸法：L=6尺/10尺	ジョイント捨板 ●キャップレス工法用 (ダンビー190・Fタイプ) Fタイプ用
ジョイント捨板セット ●キャップ工法用 Fタイプ用 裏板 化粧キャップ	ジョイント捨板セット ●キャップ工法用 Mタイプ用 裏板 化粧キャップ	降り棟ジョイントセット 化粧キャップ	けらばキャップセット R(右) ※けらばキャップにはL(左)とR(右)があります。
バックアップ材/雪止金具 バックアップ材 *Fタイプ用オプション L=6尺 雪止金具 (先付タイプ) 	IC野地板用ビス(平) 木下地・耐火野地板用 品番：B-1 サイズ：5.5×25mm 材質：三価クロム 700本/箱 	IC野地板用ビス(ナベ) 木下地・耐火野地板用 品番：B-2 サイズ：4.2×25mm 材質：三価クロム 500本/袋 	IC役物用ビス 木下地役物取付用 品番：B-3 サイズ：4.2×25mm 材質：SUS410 50本/袋(各色あり)
	IC役物用銅板ビス 役物金具取付用 シリコンパッキン付き 品番：B-4 サイズ：4×13mm 材質：SUS410 50本/袋(各色あり) 		

ダンビー改修工法

施工手順



ダンビー改修工法

生まれ変わる化粧スレート屋根

ダンビー改修工法は、アスベストの飛散を粘着ゴムアス系下葺材と、リフォーム専用の役物を使って葺き上げる「ダンビー本体」によって封じ込める段葺カバー工法です。

- 住んだまま、安全に素早く施工でき、無駄な経費がかかりません。
- 吊子レスの馳組み工法で、軽くて丈夫、割れたり、ズレたりする心配がありません。
- 屋根にかかる荷重を最小限に押えることで、地震などの災害にも威力を発揮します。
- ジョイントの配列効果で、屋根面が優美に演出できます。



▲足場を利用して設置した粉塵飛散防止シート



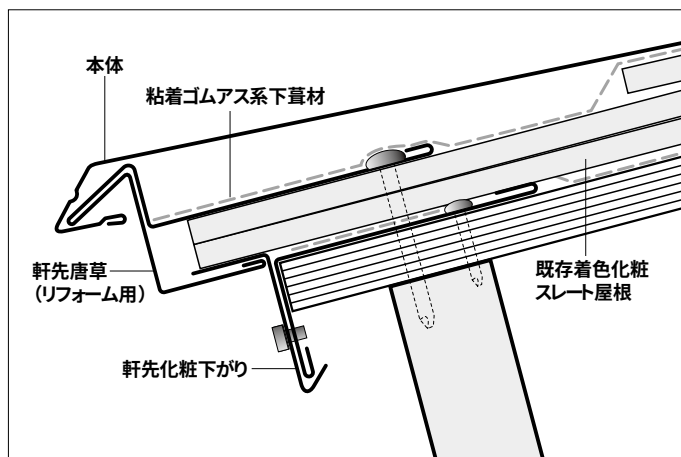
▲既存屋根の板金役物撤去作業



▲屋根面を清掃し、粘着ゴムアス系下葺材の敷込み作業

■ 軒先唐草（リフォーム専用）の納め

軒先は既存の着色化粧スレート屋根に、リフォーム専用の唐草を被せて取付けます。被せた唐草は安全性を考慮してIC役物用鋼板ビスまたは、リベットで既存の唐草に留め付けます。



▲既存屋根の唐草にリフォーム専用の唐草をIC役物用鋼板ビスまたはリベットで留め付ける



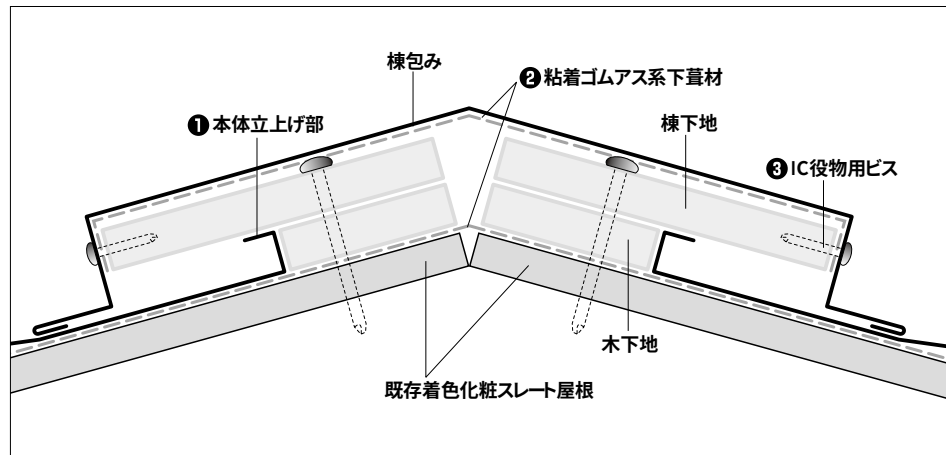
▲取付が完了した軒先唐草の納め

■ 棟の納め

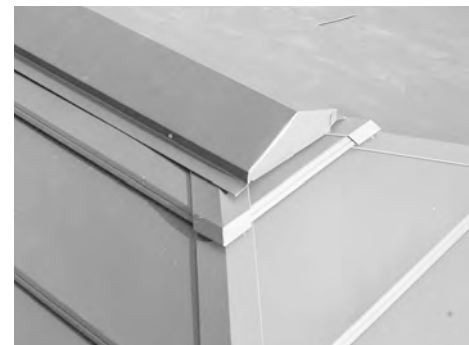
❶ 棟に接する本体の水
上側は、実測して長手
方向に25mm程度
立上げて取付けます。

❷ 棟下地に粘着ゴムア
ス系下葺材を巻込み
ます。これは棟包み
の裏面を絶縁処理し
て、防食と防水性能
を高めるためです。

❸ 棟包みは、IC役物用
ビスを使って、棟下地
の側面に条件に応じ
た間隔で留め付けま
す。



▲棟部の構成部材



▲完成した棟の納め

■ 壁の取合い

❶ 本体差込式雨押えを
壁面に沿って取付け
ます。

❷ 本体の取付けは、壁
面までの寸法を実測
し本体壁側の端部を
立上げ、差込式雨押
えに差込みながら施
工します。

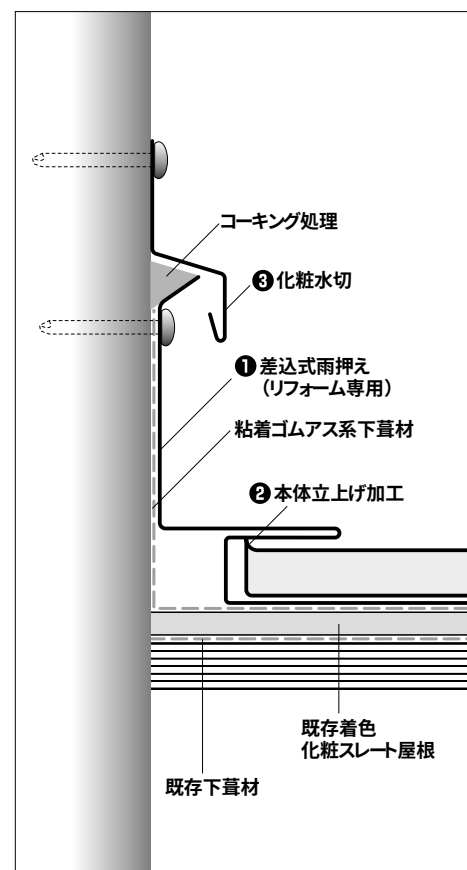
❸ コーキング箇所は、
化粧水切りを使って
納めます。これは、コ
ーキングの劣化を防
ぐためと壁際をきれ
いに仕上げるためで
す。



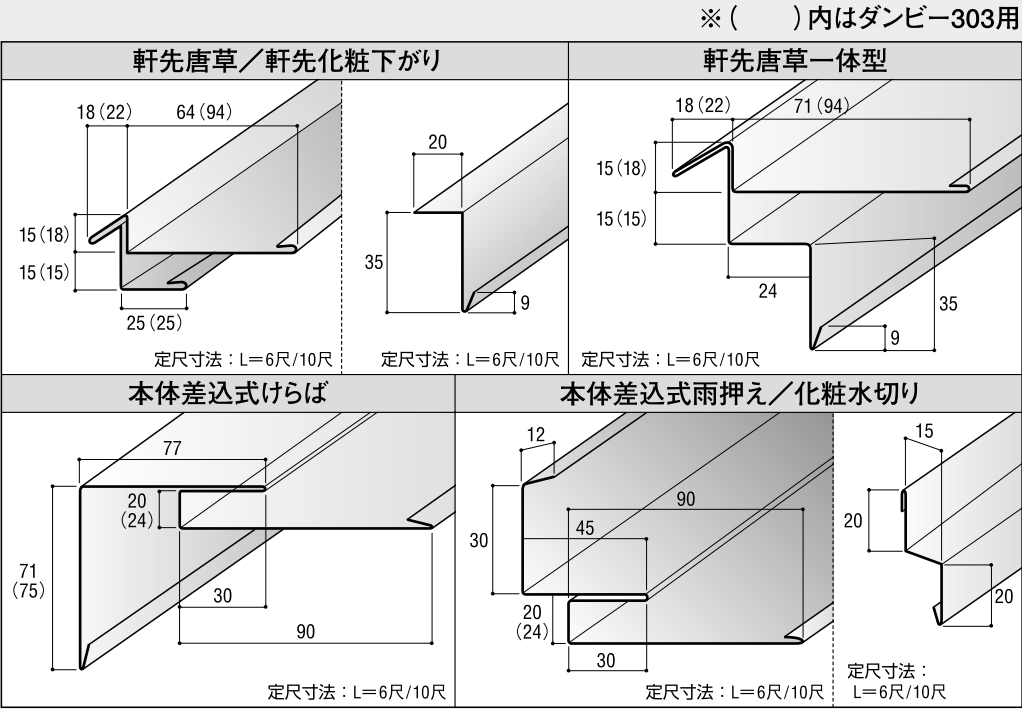
▲差込式雨押え部のコーキング処理



▲コーキング箇所を化粧水切で納めた取合い



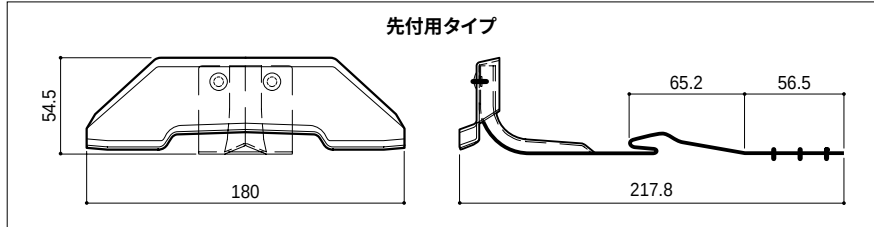
■ リフォーム専用役物



雪止め金具 ●ステンレスSUS304(焼付塗装品) ●ZAM(焼付塗装品)

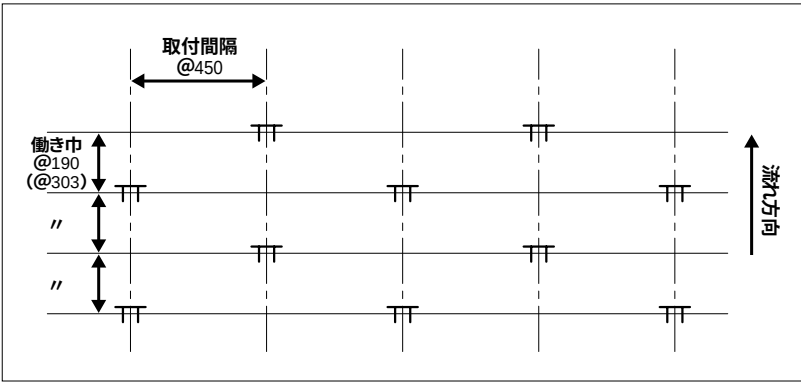


●雪止め金具は、軒先から二段目、もしくは三段目の本体はぜ部を利用して、千鳥状に取付けます。



■ 雪止め金具の所要数量(屋根1㎡当たり)

積雪量 (cm)	屋 根 勾 配					
	25／100	30／100	35／100	40／100	50／100	60／100
50	0.9	1.8	2.7	3.5	5.1	6.5
80	1.2	2.3	3.5	4.5	6.6	8.4
100	1.4	2.7	4	5.2	7.6	9.7



安全作業と施工上の注意

再読し必ずお守りください

- 高所作業（2メートル以上）では、墜落災害防止のため安全帯、命綱の着用が法律で定められています。施工現場では、正しい服装と保護具を必ず着用してください。
- 立地条件や気象条件については、必ず現地の状況を確認して施工してください。
強風、雨天、雷雨、積雪時は作業を中止してください。
狭い場所や高所作業では、屋根材が電線に触れないよう注意してください。
- 切り口やバリによる怪我を防止するため、必ず手袋を着用してください。
- 本体ならびに部材の固定は、耐風性能を確保するため、シーリングビスまたはステンレス製タイトネイル同等品を使用し、確実に施工してください。
- 屋根材や部材は、風で吹き飛ばされないよう適切な養生を施してください。
- 作業中に出る切り粉は、さびの原因になりますので必ず除去してください。
- 塗装面にキズがついた場合は、補修塗料で補修してください。
- 作業の開始と終了後は、屋根面を清掃し、梱包材や残材は産業廃棄物として処分してください。

製造・販売元



稲垣商事株式会社

<http://www.inagakishoji.co.jp/>

本 社	〒101-0024	東京都千代田区神田和泉町1-1	TEL.03 (3863) 0351(代)	FAX.03 (3851) 1340
東京東部営業所	〒124-0012	東京都葛飾区立石5-7-23	TEL.03 (3697) 8221(代)	FAX.03 (3693) 3021
東京西部営業所	〒202-0021	東京都西東京市東伏見6-9-11	TEL.042 (465) 6666(代)	FAX.042 (461) 6653
神奈川営業所	〒224-0043	神奈川県横浜市都筑区折本町375	TEL.045 (470) 7821(代)	FAX.045 (470) 7685
千葉営業所	〒261-0002	千葉県千葉市美浜区新港76	TEL.043 (242) 1331(代)	FAX.043 (242) 5162
埼玉営業所	〒331-0811	埼玉県さいたま市北区吉野町1-383	TEL.048 (664) 2291(代)	FAX.048 (664) 2290
茨城営業所	〒315-0052	茨城県かすみがうら市下稲吉2648	TEL.0299 (59) 5588(代)	FAX.0299 (59) 5820
栃木営業所	〒329-0502	栃木県下野市下古山2959	TEL.0285 (53) 6200(代)	FAX.0285 (53) 5981
群馬営業所	〒379-2233	群馬県伊勢崎市平井町1304	TEL.0270 (63) 4611(代)	FAX.0270 (63) 4622
東京加工工場	〒124-0012	東京都葛飾区立石5-7-23	TEL.03 (3697) 8224(代)	FAX.03 (3693) 3021
千葉加工工場	〒261-0002	千葉県千葉市美浜区新港76	TEL.043 (242) 1335(代)	FAX.043 (242) 5162
群馬加工工場	〒379-2233	群馬県伊勢崎市平井町1304	TEL.0270 (63) 4611(代)	FAX.0270 (63) 4622
神奈川加工工場	〒224-0043	神奈川県横浜市都筑区折本町375	TEL.045 (470) 7821(代)	FAX.045 (470) 7685